

最低賃金1000円、賃金の底上げ、労働条件改善で団体交渉！

大阪府大統一パート交渉 3月30日 供給伸張はパートの奮闘！専務の説明理解できない！

労組員12人で交渉しました。2010年度供給高10億3858万円(予算比3.6%増)、経常剰余945万円(予算比2.3%増)・当期剰余675万円(予算比7.6%)の単年度黒字決算を背景に交渉に臨みました。

永吉専務理事は、供給高は伸張したものの経費コントロール、特に定時職員人件費増がまだまだ課題であると強調し、一次回答(ベアなし・定昇のみ)で理解してほしいと述べました。

労組は、パート賃金や人数は極端に増えていないのに、どうして毎年予算超過するのか、専務の説明では理解できないと強く主張。加えて供給伸張しているにも関わらずパートの奮闘に触れない専務に対して、参加者は一斉に反発しました。その後も交渉を続けましたが決着には至らず、正規五単組交渉と同様、新学期を乗り越えて再度5月に団交をおこなうことを確認して終了しました。



よどがわ労組 3月29日 49人参加 昼休み・店舗存続・処遇改善求める！

第二回団体交渉では「昼休み取得」問題が大きな争点になりました。改めて、労働実態特に昼休み問題が大きな要求として浮かび上がりました。また、2年連続で大阪府の最低賃金の改定で時給を改定されていることについては、重大な問題であり更なる時給の底上げを求めました。店舗の存続問題は即、雇用問題であること、再雇用の処遇改善は切実な問題であることなどを訴えました。

昼休み問題では昨年秋からの要求。また1月4回に調査(昼休み実態)をしているのに未だに改善されず4月末の改善策に疑問の声があり、早急に改善をすべきであるとしています。時間給問題についても「一次回答で3円のベアはあったが今年は期中での改定がないように春闘できちんと一年間の時給を労理で決定したい」2020年に1000円にするためには年に20円以上の賃上げが必要」として今春闘で更なる上積み回答を求めました。理事会は、「2年連続の減収減益、先の見えない中ベア3円、一時金で最大限の回答をした」「府の最低賃金がどれだけ上がるかの情報もない?」「人事制度を提案しているそのなかで協議したい」として平行線でした。



労組は4月9日に執行委員会を開催し、要求項目も整理したうえで交渉を継続することを確認しました。また「東日本大震災支援活動」への職員派遣に関する協定を締結されました。

コープ自然派リンクス労組 回答引き出す！ 極めて不誠実な内容！

3月31日に会社側より回答が出されました。「不当労働行為は今までもおこなっていない」「労働組合とは誠実に団体交渉をおこなう」としながらも、「雇用、賃金は会社の専権事項」「経営主体の変更は労働組合の同意は必要ない」「出向、配転は会社の専権事項」「掲示板の設置やコピー機などの使用も認めない」など実質的に組合を認めていないのも同然です。就業規則については閲覧できるように改善されています。

リンクス労組は執行委員会では対応を協議します。

4月14日(木)は統一二次回答集中日！

震災支援や自粛ムードもありますが二次回答集中指定日に向けて、たたかいを強化しましょう。回答が動いたり、交渉を配置した場合は内容を書記局に集中してください。